

Nov. 1933.

313

20. *Carpinus Seemaniana* DIELS 湖北
21. *Carpinus kweitingensis* HU 貴州
22. *Carpinus Handelii* REHDER 湖南
23. *Carpinus Monbeigiana* HANDEL-MAZZETTI 雲南

(田川基二)

福井縣編纂：—福井縣生物目録 (昭和八年十月福井縣發行)

聖上陛下には今秋福井縣下に行はれた陸軍特別大演習御統監の爲行幸あらせられ、福井縣においては縣下の小中學校の職員、兒童、生徒六萬八千五百餘名を總動員して縣下の生物及び礦物の標本を集めその一部を天覽に供し奉つた。本編はこれを記念して縣當局より出版せられたもので、今回得たる標本中植物、昆蟲及び貝類の目録である。全編を三部に分ち、植物之部は田代善太郎氏、昆蟲之部は山田保治氏、貝之部は黒田徳米氏の指導によるものである。

今植物之部を通覽するに、羊齒植物以上の高等植物約 1680 種を日本植物總覽にみる順序に配列し、學名(主として日本植物總覽による)、和名及び標本採集地を列舉し、なほ特定の記號を以て嶺北地方に於てのみ採集せられたるもの、嶺南地方に於てのみ採集せられたるもの、兩者に於て採集せられたるもの及び、嶺南地方中特に若狹地方に於てのみ採集せられたるものを區別して縣下に於る分布の状態を各種ごとに示してある。

短時日に仕上げられたものであるからなほ研究を要する部分もあるであらうが、福井縣のフローラの大體を知るには參考となる目録である。 (田川基二)

ヘンディー：—第三紀海産珪藻類の分布豫報. N. INGRAM HENDEY: A Preliminary Note on the Distribution of Marine Diatoms during the Tertiary Period, in Journ. Bot. Vol. LXXI, No. 845, pp. 111-118, May, 1933).

地質時代に於ける海産珪藻類の地理的分布に關する我々の知識は頗る不完全である。諸學者は珪藻類の出現は地質學的に甚だ古く古生代に始まるものと考へてゐたが、最近 J. PIA の研究によれば、白堊紀以前に産したといふことは疑問であつて中生代に之を認めるには據るべき材料に乏しいと述べてゐる。ともかく珪藻類の最も豊富なのは第三紀であつて珪藻土なる化石堆積物は此時代に沈積したものである。其繁榮期は漸新生から中新生にかけての期間である。

第三紀に於ける珪藻類の地理的分布に就いて興味があるのは、ハンガリー及びニュージーランドに同様な種類が存し、また日本及び北米 Maryland に於いても同じ

事實が発見されたことである。かやうな分布が其時代の陸圏・水圏の位置と密接なる関係を有することは云ふまでもないが、從來之に適切なる解釋を與へることは困難であつた。著者は之を WEGENER の大陸移動説によつて説明せんと試みてゐる。凡そ海産珪藻類の大部分は Centricae に屬し固より運動力を有しないから、其移動は全く海流のまにまに従ふのみである。夫故第三紀には上記の如き分布を生ぜしめる海流が存在したと考へなければならぬ。WEGENER 説の原理は、大陸塊は太古より現在の如きものであつて唯其相對的位置を異にするのみであるとする。石炭紀には現今の大陸面は癒合して全體として一大陸塊をなし、而かも其相當廣範圍に亘つて淺海であつたと考へられる。此一大陸塊に裂罅が発達し、侏羅紀初期に先づ現今の濠洲が印度及びアフリカと分離し、白堊紀には南アメリカ及びアフリカ間の罅隙も亦擴大して遂に分離し、其後印度がアフリカ東岸から離れた。

南米及びアフリカ間の罅隙擴大に伴ふ南米大陸の西進運動はニュージーランド・濠洲附近の海水の流動を促し、附近の海洋生物は此海流に乗つて北へ北へと運ばれた。アフリカ西岸を北上する此海流は海岸線の影響により北東に進路を求め、當時淺海であつた中歐諸國を浸した。ニュージーランドの第三紀に出る珪藻が中歐のそれと同一系統に屬することは之によつて理解される。尙層序學上の表によつてもニュージーランドの堆積物はハンガリーのものよりも古いことを示してゐる。

次に支那及び日本は印度を牽引してアフリカ東岸との罅隙を大ならしめ、之に向つて海流が南方から移動した。此海流はアフリカの東端隅 Kenya 附近の大陸棚に遭遇したのであるが、此陸棚は位置の關係上生物の堆積には一の核心をなすものであるから一旦堆積が始まるや急激にその量を増加する筈である。實際 Mombasa の北方には多量の珪藻土を産する地方がある。其堆積物は著しく單純で殆んど *Stephanodiscus astraea* から成り時に *Cocconeis* を含んでゐる。之はニュージーランドでも同様である。

太平洋に於いてはアメリカ陸塊の西進によつて支那・日本の東岸とアメリカ西岸との距離は短縮し、又アンデス山系の前縁に大深海を生じた。その爲に海水は緩慢乍ら定常的に移動し、且當時北極がアリューシャン群島附近にあつた事をも併せ考へて、日本近海を發祥とする海流はカリフォルニア沿岸を南下しつゝ、南北兩アメリカ大陸を結ぶ低地を通過して東岸に達したものと思はれる。日本に産する *Triceratium multifrons* の如きが北米東岸の Maryland にも出ること、*T. tabellarium* がアメリカ西方の Galapagos 島並びに其東岸 Barbados に産することは上述の海流を考へることによつて説明し得る。

Nov. 1933.

315

北米の南部低地を通過した海流はアフリカ及びブラジル間を北進する海流と出會つて北西に轉向せしめられ北米東岸の諸州を浸した。兩海流の會合點では種類の混淆が起ると共に、ニュージーランドから運ばれた或種類は西方に運ばれて Barbados に沈積した。同様にパナマを通過して北大西洋に入つた種類も南方から北東に向ふ海流に捕へられて歐洲に沈積する結果となつた。カリフォルニア及びモロンに就いて調査した處によると、カリフォルニア産の屬のうち其 90% 以上はまたモロンにも産することが知られた。又カリフォルニア産の *Coscinodiscus* は 22 種を算するがそのうちの 14 種はまたスペインにも産する。

WEGENER の大陸移動説によつて地質時代に於ける海産珪藻類の分布を適當に説明し得るやうであるが、地質學者のうちには WEGENER の説に反對の態度をとる人が少くない。IRMSCHER は植物分布の説明について、故小澤博士は紡錘蟲の分布について何れも大陸移動説を利用してゐる。生物學或は古生物學上の此方面の研究は將來に期待されることが多いであらう。

(米田勇一)

石戸谷勉：—漢藥の研究第一編, (T. ISHIDOYA: Chinesische Drogen, Teil I. 1933).

古來東洋に行るゝ漢藥の生藥材料は如何なるものより構成せらるゝかは一々其漢名を附して生藥者間に行るれども、材料は植物體の一部に過ぎざるを以て之を同定するは實に至難の業とせられたり。然るに著者石戸谷氏は元來林學者にして植物學的藥學を修めし人にあらず、永らく朝鮮林業試験場技師として朝鮮の林業に盡くす所ありしが、益其技能を發揮せんとして俄に試験場を去るに到りしは、當時世間の最も奇怪とせし所なり。其後氏は感ずる所あり専ら生藥の研究に没頭し俄に氏の専門を改むるに到り永年刻苦精勵の限りを盡くし何人も未手を染めざる支那生藥研究を大成するに到り。氏が試験場を去る時關係せし者共茲に到り此研究を見て恐らくは啞然たらざるを得ざるべし、石戸谷氏の如きは實に古今稀なる人として激賞すると同時に之が研究を援助せし藤澤樟腦を以て有名なる故藤澤友吉翁に大なる敬意を拂はずんばあるべからず。

第一編には全草本藥材三十二種、葉藥材十一品、花藥材十五品、種子果實藥材八十四品に就き記されしものにて一々圖を以て之を説明するのみならず、各藥材には皆之を検索すべき表を掲げ親切丁寧を極めしものである、之を以て今まで全く暗黒なりし生藥の檢定に一大光明をもたらしたるものと云ふべく又不朽の名著と云ふべし、書は單行本にして京城大學藥理學教室の出版物なり。

(Z. Y.)